

開催にあたって

四街道市ではじめて行われた古文書調査は、昭和40年代に実施された長岡地区の井岡家文書いおかけもんじょで、調査された829点の古文書のうち、嘉永2年(1849)の小金原御鹿狩文書こがねはらおんししがりもんじょは昭和58年(1983)に当市の指定文化財となりました。また、物井地区で桜井家文書の調査が行われ、平成2年に『近世編史料集Ⅰ』が刊行されました。

その後、古文書への取り組みは途絶えていましたが、平成19年10月に、市民ボランティアによる「市史編さん協力員」制度が、市史編さん事業の一環として発足しました。最初に手掛けた調査は井岡家文書の再調査で、先に調査された史料とその後発見されたものも含め、約5,300点が5年余をかけて整理されました。

井岡家は、江戸時代を通じて旧長岡村の名主や組頭を勤め、当主は治郎左衛門じろうざえもんを名乗られた家です。明治以後も長岡村の用掛ようがかりや戸長こちょうなど行政に携わり、旧千代田村では学務委員がくむいいん、農会理事のうかいりじなどの公職についていました。そのため、江戸時代の古文書や明治以降の公文書など、多くの貴重な史料が当家に残されており、四街道の市史研究には欠かせないものとなっています。

この企画展は、これまであまり明らかにされていなかった四街道の歴史を、井岡家文書を通じてご紹介いたします。

日ごろ目にすることのない「古文書」に親しんでいただくことで、郷土愛を高める契機となれば幸いです。

四街道市教育委員会

企画・運営：市史編さん協力員